

※収量の安定、向上:目標480kg/10a以上

- 稲ワラすき込みで地力増進 ●土壌診断を行い酸性矯正 ●部分浅耕—工程播種の実施

※実需者が求める品質の向上:Aランク麦づくり

- 適期の穂揃い期追肥でタンパク質含有率向上 ●ちくしW2号は12%以上

※赤かび病を出さない

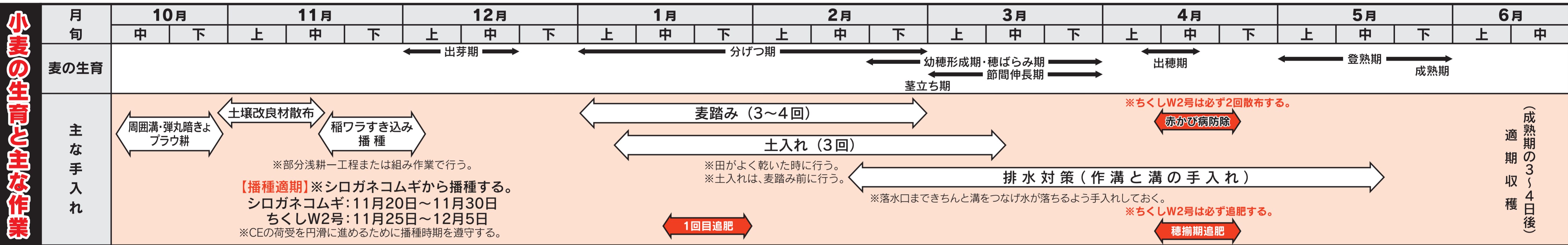
- 適期防除の徹底 ●ちくしW2号は2回散布

※農薬の安全使用と隣接する作物への飛散防止の徹底

(主な病害)



(主な雑草)



1. 土づくり

土壌改良材散布

時期	土壌改良材	散布量kg/10a	備考
播種前	生石灰	100	目標pH 6.0~6.5
	苦土石灰	200	
	オイスターミネラル	100~200	

●土壌診断を行いましょう。酸性矯正には生石灰を散布します。

2. 種子の準備と播種

**異種混入が発生すると販売が困難になるので
毎年必ず種子更新を行いましょう!!**

(1) 種子消毒

対象病害虫	薬剤名	処理方法および処理時間
ヤギシロトビムシ	(劇) アドマイヤー水和剤	乾燥種子10kgあたり15gを種子粉衣する。(0.15%)
	クルーザー FS30	乾燥種子10kgあたり60mlを種子塗抹する。
斑葉病、裸黒穂病 なまぐさ黒穂病	ベンレートTコート	乾燥種子10kgあたり50gを種子粉衣する。(0.5%)

※クルーザーFS30は、前年度ヤギシロトビムシが多発したほ場に使用する。

(2) 播種時期と播種量(ドリルまき)

品種	播種適期	播種量(10aあたり)
シロガネコムギ	11月20日~11月30日	6.0kg~7.0kg
ちくしW2号	11月25日~12月5日	

- 大豆あとの播種量は上表基準量より2割程度減量する。
- 深播き(5cm以上)にすると出芽が遅れ、分けつの発生も抑制されるので、覆土(播種深度)は2~3cmとする。
- 遅播(12月6日~)となった場合は、播種量を3割増しとする。

3. 踏圧(麦踏み)

時期: 1月上旬~2月下旬(本葉3~4枚~節間伸長開始前まで)

- 乾燥が続いて、土壌が乾燥している時の午後、茎葉水分含量の少ない時に実施する。
- 土がしまり麦の生育に悪いので、土壌が湿っている時は行わない。

麦踏み開始時期の麦の様子



4. 土入れ

時期: 1月上旬~中旬(本葉3~4枚)、2月上旬頃、3月上旬頃

- 1回目は浅く、2回目、3回目と麦の生育に伴って土入れの量を増す。
- 土入れは麦踏み前に行う。晴天続きのよく乾燥した時に行う。
- 土入れは倒伏防止・雑草防除に効果があるので必ず実施する。

5. 施肥

品 種 名	基 肥 (10aあたり)	追 肥 (10aあたり)	
		1回目	穂揃期
シロガネコムギ (小麦)	ちくごのめぐみ 444	麦追肥一発2号	—
	40kg (大豆あとは20kg)	40kg	
ちくしW2号 (小麦)	ちくごのめぐみ 444	硬質小麦専用追肥 (3004)	尿素 4kg(水100ℓ)×2回 ※葉面散布
	40kg (大豆あとは20kg)	30kg	

- 大豆あとの場合、基肥量を半分にする。
- ちくしW2号については穂揃期追肥(出穂後7~10日)を必ず行うこと。(2回目は、1回目の穂揃い期追肥の7~10日後に行う)

6. 赤かび病防除

品 種 名	散 布 時 期	使用薬剤及び10a散布量	使用回数
シロガネコムギ (小麦)	出穂後7~10日(開花期) ※収穫14日前まで	トップジンM粉剤DL 4kg 又は トップジンM水和剤100g/水100ℓ (希釈倍率1000倍)	1回
ちくしW2号 (小麦)	1回目: 出穂後7~10日(開花期) 2回目: 1回目防除の1週間後 ※収穫14日前まで	同上	2回

●シロガネコムギは、開花期に雨が多い場合、上記散布時期の7~10日後に2回目の防除を行う。

7. 雑草防除

区分	薬剤名	処理時期	10aあたり 使用量	適用雑草					使用上の留意事項
				イネ 雑草	ミチヤ ナギ	アメリカ フウロ	キン ボウケ	ヤエム グラ	
	ラウンドアップマックスロード バスタ液剤	播種前~ 出芽前まで	500ml	●	●	●	●	●	周囲への飛散防止を徹底する。 ※ラウンドアップマックスロードは、水50ℓ (少量散布の場合は25~50ℓ)に希釈する。
土壌処理	リベレーターフロアブル	播種後~麦3葉期 (雑草発生前~イネ科 雑草1葉期まで)	60~80ml	●	●	●	●	●	乳剤、粒剤ともに大雨の前後には使用しない。 播種後、できるだけ早く処理する。
	リベレーターG	播種後~麦2葉期 (雑草発生前~イネ科 雑草1葉期まで)	4~5kg	●	●	●	●	●	
茎葉処理	ハーモニー細粒剤F	播種後~麦3葉期 (雑草発生前~発生始期)	4~5kg	スズメノ テッポウ 密	●	●	●	▲	ハーモニー細粒剤Fを使った場合、ハーモニーDFは使えません。 ミチヤナギ、ノミノフスマ、アメリカフウロ、キンボウケ類に効果高い。
	ハーモニーDF	播種後~ 節間伸長前	5~10g	スズメノ テッポウ 密	●	●	●	●	スズメノテッポウ、ミチヤナギ、ヤエムグラ、カズノコグサは10g/10aを目安。
	バサグラン液剤	小麦の生育期 (播種後3~8期までに散布する) 但し、収穫45日前まで	100~200ml	-	▲	●	●	●	アメリカフウロ、キンボウケ類に効果高い。
	エコバートフロアブル	小麦節間伸長開始期まで (収量率92~4葉期) 但し、収穫45日前まで	50~100ml	-	▲	▲	▲	●	タデ類とヤエムグラに効果高い。カラスノエンドウへの効果は低い。 麦の葉身に軽微な白斑、白点などを生じるが、一過性でその後の生育に影響しない。
	MCPソーダ塩	幼穂形成期 (但し収穫45日前まで)	200~300g	-	▲	●	●	▲	カラスノエンドウに効果高い。気温が高い程、除草効果が安定する。分け つ抑制作用があるため、茎数を十分確保してから散布(目安:3月上中旬)

- 除草剤の液剤を使用する際は、上記の10a当たりの薬量を水100ℓに希釈して使用して下さい。
- ※ハーモニー剤は抵抗性のあるスズメノテッポウには効果がありません。

コアカザ対策

- コアカザの出芽が揃い、小麦が繁茂する前の2月下旬頃にハーモニーDFを散布する。
- 土入れにより新たにコアカザが出芽するので、ハーモニーDF散布後の土入れは控える。

カラスムギ・ネズミムギ対策

- カラスムギ対策のために夏場に湛水または稲作をする。
- ネズミムギ発生抑制のため、前年多発した圃場では発生前の1月下旬~2月上旬頃の土入れ後に土壌処理剤として、トレファノサイド乳剤(200~300ml/希釈水量100ℓ/10a; 収穫45日前まで)、またはトレファノサイド粒剤2.5(4~5kg/10a; 収穫45日前まで)を散布する。散布後は、後発の出芽を抑えるために土入れはしない。単年度では完全に抑えられないので複数年処理を行う必要がある。併せて、雑草の種子が成熟する前に手取り除草を行う。

8. 品種特性表

品 種 名	出穂期	成熟期	穂数/m ²	耐倒伏性	穂発芽性	収量kg/10a	赤かび病耐病性
シロガネコムギ	4月10日	5月28日	556	極強	易	532	中
ちくしW2号	4月11日	6月1日	482	強	難	497	やや弱

※引用元: 福岡県における主要農産物の品種特性 (シロガネコムギ: 筑後分場、ちくしW2号: 試験場農産部(筑紫野市吉木))

※作業日誌・生産工程管理チェックシートは別に配布しますので、必ず記帳をお願い致します。